

葬送儀礼(葬儀)について 5

北枕

北枕で寝ると縁起が悪いとされるが実際には全く仏教とは関係がない。
お釈迦様が入滅の際に頭北面西右脇臥(ずほくめんさいうきよが)であった。
少しでも仏様に近づきたいとの願望から何時しか北枕になっただけである。
民間信仰の北は陰を意味することにも重ねられて現在に至る。

湯灌

古川柳に「人の一生は盥(たらい)から盥なり」というのがある。
生まれた時は産湯で死ぬと湯灌をするという意味だ。
本来は川の上流から下流にかけて汲んだ水を使う。
タライには先に水を入れておき後から湯を入れるがこれは逆さ水といわれる(普段はしてはならない事)
現在はアルコールで拭き清める拭き湯灌が主流となっている。
洗体湯灌は、簡易バスタブ(空気で膨らませる)を使い行なうが料金も高くなる。

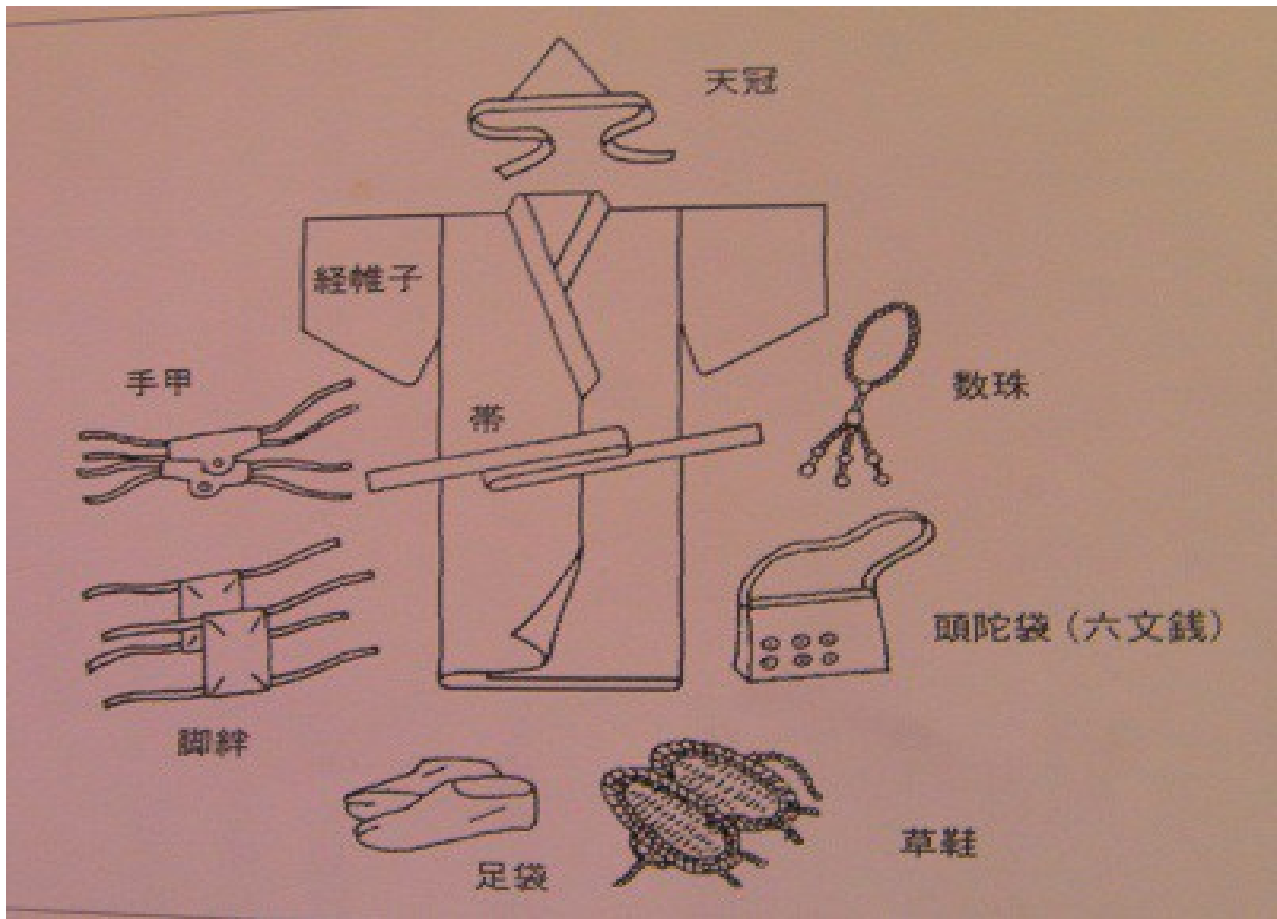
死に化粧

湯灌後に納棺師が髭剃り、メイクなどで整えてくれる。

死に装束

死者があな世に旅立つための旅支度。
晒(さらし)一反を残さず使うことになっており、残すと死人が出るといわれた。
これで経帷子(きょうかたびら)、足袋などを縫い上げた。
基本、袖なしの単衣で糸じりも止めず、返し針もしない。
かつては経帷子に経文を書いたのだが現在は省略されている。
着せ方は左前にする。

以下(次項)、死に装束図と補足



天冠

頭巾、三角巾、かみかくし、神烏帽子、布帽、紙半ともいう。
参列者もこれをつける地方もある。

上帯

帯をしない地方もある。

手甲

日焼け、ケガ防止のために使う。

脚絆

すね当て。

足袋

白足袋。

草履

藁草履。

頭陀袋

六文銭を入れる袋。六文銭は三途の川を渡る通行料、冥土までの旅費としてなどの説がある。

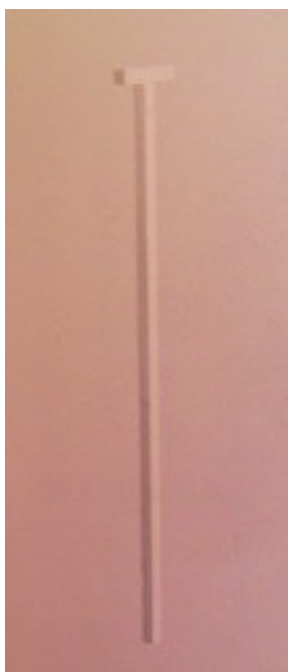
編笠

真菰(まこも)できている日除け。

杖

死出の旅で山を登るために。

これらを装着し手には念珠を握らせる。



末期の水

前後するが弊社では臨終の際に「末期の水」の儀を行う。

現代では病院の処置が優先されるのでどうしても枕飾りを施し安置させていただいた後になる。

脱脂綿に水を含ませてお口元を軽く潤す。

死出の旅立ちに喉が乾かないようにするためである。

仏教における意味付けとしては、釈尊が入滅の前に水を求めた故事による。

道央圏の葬儀社でこれを行っているのは弊社のみと思われます。

葬儀の曲友(かねとも) 札幌

<http://kanetomo.2lala.net>

曲友(かねとも)